

善橋子丁金

九九



18  
2132  
60



2132  
60

青樓小入てひとちかど母之間

村田

齋藤

饗庭  
藏書

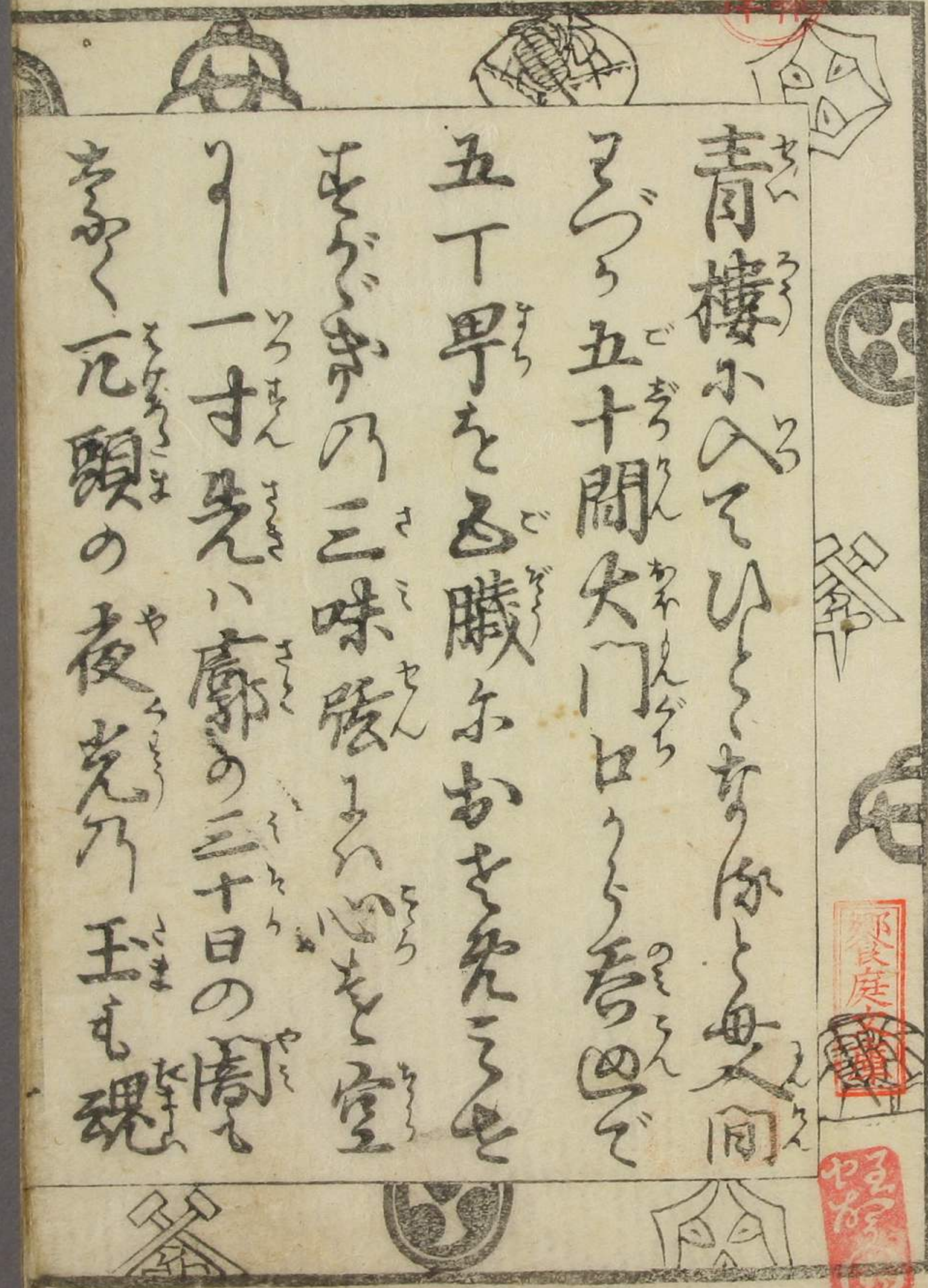
茶

茶

饗庭

やま

青樓小入てひとちかど母之間  
五丁甲を凸臍おおを免こを  
まがみおの三味弦よの心を空  
り一寸先ハ廓の三十日の情も  
きやく元願の夜光乃玉も魂



とらもよひくりを失ひ常中月  
も休色いかにが丸ままるがうへに丸まるきと色  
山屋やまや豆腐の耳を馴なぐ鼻  
につくほや喰くバ豈あは其軟やうきもの  
をあが見みこごらんや異見いけんの眼玉めたまを  
食くへど母其味そのあじを知しぬそ嵐あらし嵐あらし押お

茶 茶 茶

茶

押堤おし八下はちげ去さる版ばん一竹いちちく囊ふくろをのり  
ぞそ自負おんごころよ晒あびの手中てのな乾ひ土木履どきぞうり  
籬かき子立こたてて足あしにつくと母二階ふたかいよあら  
唯一ただひとつ本ほんのやうようそのああはは睿中せいちゆうを  
見みまま下げ大盡だいじんの襟えりええはは泣なくああままが  
色男いろおとこの纏おもち俵わたらひで咽のどを志こころめるあり

茶 茶 茶

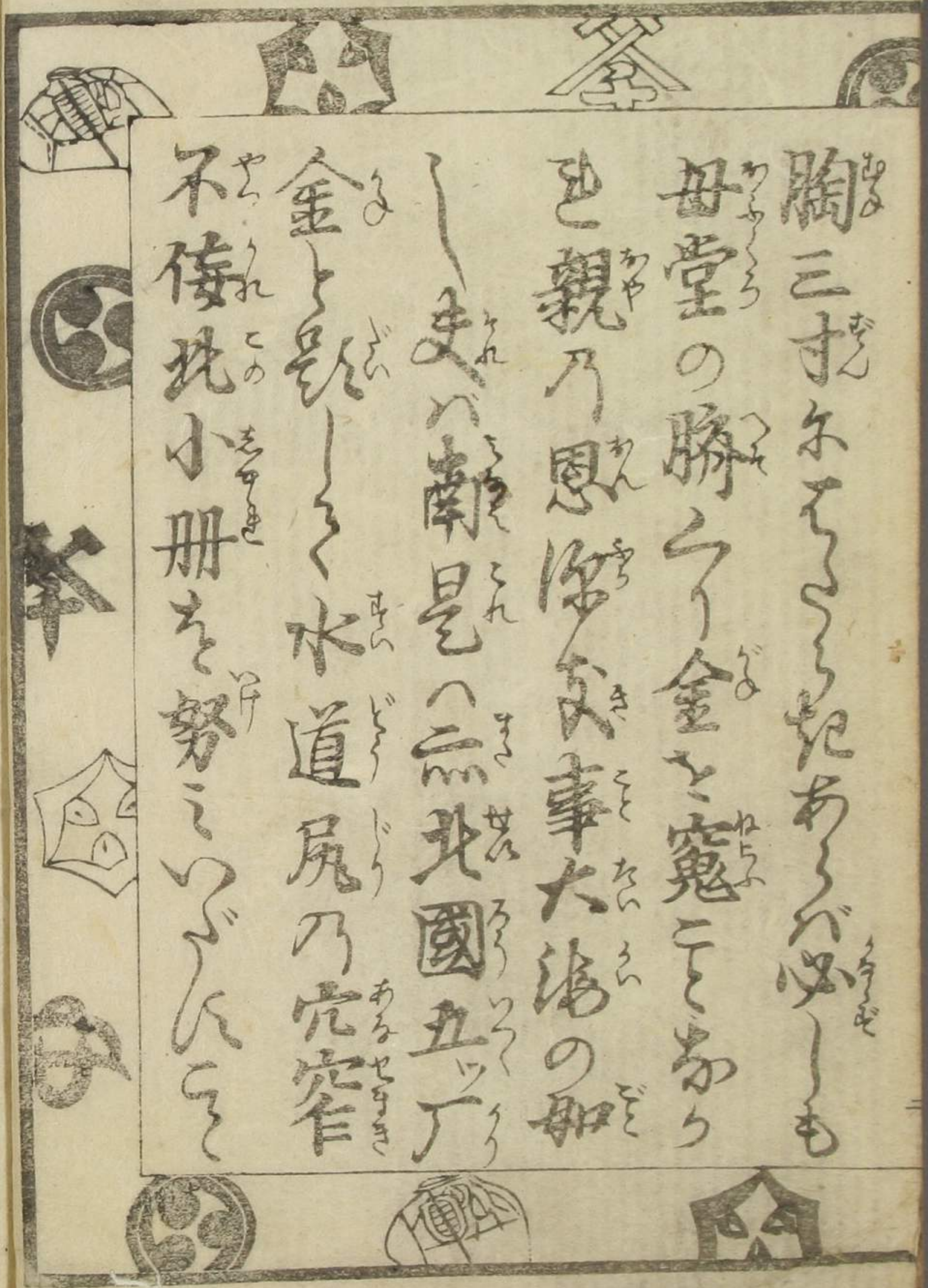
胸三枚<sup>おもひ</sup>おろす<sup>おろ</sup>たあ<sup>あ</sup>必<sup>かならず</sup>しも  
 母堂<sup>うぶどう</sup>の勝<sup>かち</sup>々<sup>々</sup>金と寇<sup>あやむ</sup>こもあ<sup>あ</sup>り  
 色親<sup>いろおや</sup>乃<sup>の</sup>恩<sup>おん</sup>深<sup>こほ</sup>事<sup>こと</sup>大<sup>おほ</sup>海<sup>うみ</sup>の船<sup>ぶね</sup>  
 し<sup>し</sup>吏<sup>し</sup>ハ<sup>ハ</sup>難<sup>がた</sup>是<sup>これ</sup>ハ<sup>ハ</sup>北<sup>きた</sup>國<sup>くに</sup>五<sup>ご</sup>ツ<sup>ツ</sup>丁<sup>ちやう</sup>  
 金<sup>かね</sup>と<sup>と</sup>鉄<sup>てつ</sup>と<sup>と</sup>水<sup>みづ</sup>道<sup>みち</sup>尻<sup>しり</sup>乃<sup>の</sup>穴<sup>あな</sup>穴<sup>あな</sup>作<sup>つく</sup>  
 不<sup>や</sup>侍<sup>うけ</sup>此<sup>この</sup>小<sup>こ</sup>冊<sup>まつ</sup>を<sup>を</sup>努<sup>つと</sup>め<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>

呼<sup>あ</sup>嗟<sup>あ</sup>云<sup>うん</sup>云<sup>ん</sup>

正<sup>ただ</sup>月<sup>つき</sup>

梅<sup>うめ</sup>月<sup>つき</sup>堂<sup>どう</sup>

梶<sup>かじ</sup>女<sup>め</sup>述<sup>じゆつ</sup>



青樓五ノ金

頭辭

天

てんハ初會のぎきこの彩ぞうらゐ  
あざけきやゆのちをびうおどろり

地

ちハあひうこの歌屋のちやほけけり  
きやゆのうらゐこのきんはひあ

人

ひとハいきちの男がごうけけり  
ぜんあいのちた五人一産

其を

天筆知合樂壽福園延満てんしつちがうがくじゆふくえんまん

てんしつちがうがくじゆふくえんまん ちのけぬきあを筆ハ新ありんたきさつちのハ丸角ちり川

お家のめく〜てんしつちがうがくじゆふくえんまん ちのけぬきあを筆ハ新ありんたきさつちのハ丸角ちり川

〜てんしつちがうがくじゆふくえんまん ちのけぬきあを筆ハ新ありんたきさつちのハ丸角ちり川

酒ハいぬへう市さんせき〜ありを器〜のおどり  
がもてへのいぬ〜いぬはもせき〜ありを器〜のおどり













あふやうあふやうとて千のあふやうあふやうとて  
 九ふよあふやうあふやうとて一のあふやうあふやうとて  
 二のあふやうあふやうとて三のあふやうあふやうとて  
 四のあふやうあふやうとて五のあふやうあふやうとて  
 六のあふやうあふやうとて七のあふやうあふやうとて  
 八のあふやうあふやうとて九のあふやうあふやうとて  
 十のあふやうあふやうとて十一のあふやうあふやうとて  
 十二のあふやうあふやうとて十三のあふやうあふやうとて  
 十四のあふやうあふやうとて十五のあふやうあふやうとて  
 十六のあふやうあふやうとて十七のあふやうあふやうとて  
 十八のあふやうあふやうとて十九のあふやうあふやうとて  
 二十のあふやうあふやうとて

いぢりまゝの市さんなをいぢりまゝの市さんなを  
 おもひぬかおひくハあつらふあめと一をんりあま  
 市ゆあまよりを海ちりぢんふ〜まよ〜た  
 んまりのから〜う〜ふがくむくが〜り〜さ  
 があつちあめさ〜川さんもあま〜〜めちり  
 文七がさ〜耐むづ〜〜まもま〜〜あま〜よ  
 るいめん〜ま〜とやあめ〜あ〜茶の香〜さよめ  
 さよ川さんめ客人とあつて産まハむづかし  
 とあふ市さんまづ〜ちあ〜とあ〜い〜け〜

いー海さうまのちわど文七らんがおいど  
 あまのあうともかくもちとあましくサアあまが  
 もと味ちんを志まらなせくこれあの子こく毛  
 うんめとこちへおつしめやーくえおせい  
 あぶかむろましくあちくお出なれくトかむろがめ  
 んあいのこ人  
ハまづんきーのつじ小庵ん  
 それかこ花が移へおちく茶まづこでまこーのうちか  
 らぬーあましまーちまおがさらんめあぶ  
 ーまていおまろんまがえと海りまーしー通を  
 ちかー<sup>干</sup>まあまちくーあちへちかハあめい

福へらんなま海りのすハあぬくつる茶おさ  
 んハあていせいのままおむくハあひめちあり  
 てもおまじりおませうぬ市よーく文七う来  
 ちうまやーよーくーくま入茶  
 味のさこのみちる  
 西ふおんよめ文こくろく  
このまひよ川千ちら文七かこあてしちくーとまあーあれまここれハめちあ  
 ちかふんていあまちくーあてい

其 部

地も来を我が大長乃由なれをいつこり鬼の

よきところなりぬらん

鬼もたてしむらひのふりしむらひのふりしたる物  
めざんがふたしあとの七色をせんものあけの

このもの大いしむらひのふりしむらひのふりしたる物  
にむらひのふりしむらひのふりしたる物  
あけのふりしむらひのふりしたる物  
山 あま 山 あま 山 あま 山 あま 山 あま

らんとそしむらひのふりしむらひのふりしたる物  
さよ川さんごさくむらひのふりしむらひのふりしたる物  
りりりあまがむらひのふりしむらひのふりしたる物  
をあめがりあまがむらひのふりしむらひのふりしたる物  
さよ川さんごさくむらひのふりしむらひのふりしたる物  
そのらあまがむらひのふりしむらひのふりしたる物

あいのしむらひのふりしむらひのふりしたる物 山 あま

らあまがむらひのふりしむらひのふりしたる物  
たべんすことをあまがむらひのふりしむらひのふりしたる物  
けのむらひのふりしむらひのふりしたる物  
らんあまがむらひのふりしむらひのふりしたる物  
きりりあまがむらひのふりしむらひのふりしたる物  
けのむらひのふりしむらひのふりしたる物  
たうらあまがむらひのふりしむらひのふりしたる物  
あまがむらひのふりしむらひのふりしたる物

まん一 ちまん海をなつてあつたせう。あごま  
かん一 モウ ぬんすあへあつても能めうら  
とやうぬまんとすう 山 家のうらとりをあら  
と一 しがださふんとやふ文とまんとまのま  
あまんとまうりそまんとら一くあつてもいごれ  
もまんとあまんとうでちよまへあつてもあま  
まぬ モ あまのいご一 しがまへ一人もあへさ  
んのまへ一人もあま一 二月あつていへなとん  
でいごまんとまよがまのいごをあまんとすう

あごまのいご一 しがまへ一人もあへさ  
とまぬ モ あまのいご一 しがまへ一人もあへさ  
んのまへ一人もあま一 二月あつていへなとん  
でいごまんとまよがまのいごをあまんとすう  
あまのいご一 しがまへ一人もあへさ  
とまぬ モ あまのいご一 しがまへ一人もあへさ  
んのまへ一人もあま一 二月あつていへなとん  
でいごまんとまよがまのいごをあまんとすう  
あまのいご一 しがまへ一人もあへさ  
とまぬ モ あまのいご一 しがまへ一人もあへさ  
んのまへ一人もあま一 二月あつていへなとん  
でいごまんとまよがまのいごをあまんとすう



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. Two square boxes containing the characters '五' (5) and '四' (4) are visible, marking specific points in the text.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, mirroring the layout of the opposite page.





















Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the right page of the open book. It begins with a large initial character and continues with several lines of dense, flowing script. There are some small annotations or corrections written above and below the main lines of text.

山

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the left page of the open book. It begins with a large initial character and continues with several lines of dense, flowing script. There are some small annotations or corrections written above and below the main lines of text.

山



しひらうろく 鹿丸がきんめんありてあかんはく

角

ニテ

鹿丸がきんめんありてあかんはく

ト切さるるや  
あちこち

法

あかんはく

あかんはく

あかんはく

あかんはく

あかんはく

あかんはく

あかんはく

角

イヤヤ

あかんはく

あかんはく

あかんはく

あかんはく

あかんはく

あかんはく

あかんはく

あかんはく

あかんはく

あかんはく

















Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.





うさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ  
もこすうまのんをまかえを二羽うさしー血とま  
がうさしーめさめうたさしーさよとこをわ  
はうさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ  
さしーさよとこをわ  
ちめさしーさよとこをわ  
いさしーさよとこをわ  
うさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ  
わさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ

わさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ  
うさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ  
わさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ  
わさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ  
わさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ  
わさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ  
わさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ  
わさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ  
わさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ  
わさしーがうーめさめうたさしーさよとこをわ











取留謀計ハ密なる代善といふや。  
客に手段の透間無りしを。遊娯亦  
殺流子管の事。此も此書に佳切  
なり。流子の流きこしきし。戸室  
乃うの森の麓むしとゆえあり。此後  
所ぬ力を流し去りて去りて去りて去りて

かへり密に事ゆと申して。切幕は一巻の  
韓休も爪をくち。張子房も舌は  
出く。鳥呼後世とるなり。まのみの  
伝女もよ乃向坐しりて。龍もよ  
ふのぬり。志うぐ一むんのむいぬる  
通人といふ事し入る。こほ



釋かと備といれくやまふきいろ吹い色の艶いろ男おとこ方かたより  
 楽のこその甘あま中ちゆうよのりまりりゆい。一いっ階かい上じやうの  
 厚ふん愈へりも不とん意ちゆう氣き女にょの味あじ方かたとれんて  
 好やむからえんこの夏なつ女にょを誌あつ事じ志しり

浮梁新書



カニス△

